

第 291 回一関市教育委員会定例会 会議録

1 開催日時

開会 令和8年5月27日（水）午後1時30分

閉会 令和8年5月27日（水）午後3時00分

2 会議の場所

花泉支所東大会議室

3 出席者

教育長 時 枝 直 樹

委 員 伊 藤 一 志

委 員 佐 藤 一 伯

委 員 大 浪 友 子

4 会議に出席した関係者及び職員

教育次長 千 葉 せつ子

一関図書館長 藤 倉 忠 光

副参事兼学校教育課長 和 賀 真 樹

副参事兼一関市博物館次長 佐々木 修 路

教育総務課長 千 葉 圭 子

文化財課長兼骨寺荘園室長（代理） 木 村 修（骨寺荘園室補佐兼係長）

いきがづくり課長 小野寺 和 宏

教育総務課課長補佐兼庶務係長 松 谷 俊 克（記録）

5 報 告

- (1) 行事報告及び行事予定について

6 その他

- (1) 令和8年度学校教育行政の重点について（ことばの力を育てる教育）
(2) 一関市地域クラブ活動推進協議会について
(3) その他

7 会議の議事

○教育長 ただいまから、第291回一関市教育委員会定例会を開会いたします。

報告(1) 行事報告及び行事予定について

○教育長 報告(1) 行事報告及び行事予定についてであります。行事報告については私から申し上げます。資料No.1をご覧ください。前回の教育委員会定例会が4月22日でありましたので、それ以降の行事についてご報告いたします。

4月24日には、3月9日に一関図書館脇で静態保存されている機関車の塗装塗り替え作業を行っていただいた、日本塗装工業会岩手県支部への感謝状贈呈を行いました。3月9日の作業当日は、市内外の15社から29名に参加していただき、塗装が剥がれたり浮いたりしている部分に下処理を施した後、錆止めに入った新たな塗装で車体を上塗りしていただきました。岩手県支部では、地域住民への日頃の感謝を表す機会として、県内各地で場所を変えながらこのような奉仕作業に取り組んでおられます。

4月27日に、岩手県の学校教育D X・学力育成協議会が開かれ、出席してまいりました。学びの改革プロジェクト、学校教育D X、校務D X、G I G A端末の更新についてが話題の中心となりました。終了後には、県教育委員会と市町村教育委員会との意見交換会も行われ、令和8年度の県教育委員会の各課の方針や事業についての説明がなされました。

4月28日には、一関市いじめ問題対策連絡協議会を開催いたしました。児童相談所、法務局、警察、市内の校長先生方、県南教育事務所、市長部局の健康こども部が入った会議を年1回行っております。事例も紹介しながら協議を深め、連携していくことを確認いたしました。

同日、第1回一関市就学支援委員会を開催いたしました。医療関係、特別支援学校、市の関係機関、幼稚園、小中学校の関係者15名に令和9年度までの任期で就学支援委員を委嘱いたしました。そして、令和7年度の就学支援の状況、令和8年度の就学支援計画について協議を行いました。

4月29日には、第53回岩手県南宮城県北神楽大会が巖美中学校体育館で開かれ、祝辞を述べてまいりました。11団体の中で、一関市内からは5団体が出演し、そのうち1団体は菰荳中学校の特設鶏舞部による出演でありました。

4月30日からは、学校訪問を開始しております。各学校の児童生徒の様子、授業の進行状況、学校経営上の課題について校長との情報交換を行い、学校経営を向上させることを目的としております。本年度は2学期初旬を目途に35校の訪問を予定しております。

5月1日は、一関市P T A連合会の定期総会・懇親会が開催されました。市長が総会で挨拶を、懇親会で私が挨拶をいたしました。令和8年度は、一関東中学校のP T A会長がP T A連合会の会長となりました。P T Aの皆様には、各学校への支援や教育委員会の事

業、各種協議会の委員を務めていただいておりますので、その御礼と、学校教育の重点についてご理解をいただきたい旨を述べてまいりました。

5月4日には、一関市博物館の企画展「Museum Bird 資料の中の鳥とりどり」の展示解説会に出向いてまいりました。博物館が収蔵する資料を中心に、鳥が描かれたものや象られたものを、考古、歴史、民俗、美術のジャンルを超えて紹介した展覧会であります。田村家伝来の鷹図、重要文化財の大槻文彦和歌短冊のホトトギス等、一関市の歴史・文化に関わる資料から鳥をテーマに展示されその背景や意義を学ぶことのできる展覧会となっております。6月7日まで開催されております。

5月8日には、一関地方校長会が開催され出席してまいりました。伊藤委員、大浪委員にもご出席いただきました。

5月12日には、第1回幼小中高特高専大校運営推進協議会の運営委員会が行われました。今年度で33回目を迎えます。校種の異なるそれぞれの園長、校長、学長が集まって、年2回、1回目は学校会場にて授業参観を行い、学校経営上の課題等を発表していただきます。2回目は講演会を行っております。今年度もキャリア教育をテーマに、講師を縦の系列で考えていくことが確認された運営委員会となりました。

5月14日から15日にかけて、全国都市教育長協議会定期総会・研究大会が高知県高知市で開催されました。全国の都市（市と特別区）の自治体数は805となっております。文部科学省の行政説明、全国のエducation長の発表、協議等が行われました。文部科学省の行政説明では、「初等中等教育政策の動向」をテーマに、当市でも課題となっております次期学習指導要領、学校給食費の抜本的な負担軽減、部活動の地域展開、公立小中学校の適正規模・適正配置、不登校児童生徒への対応等、各施策の意図や現在の状況について直接文部科学省の考えを聞いたことは、当市の教育行政を進めていく上で非常に参考になると感じたところであります。

5月20日に一関市生徒指導推進連絡協議会総会が開催されました。市内8地域の生徒指導に関わる連絡協議会と、高等学校の県南生徒指導連合会、県南教育事務所、一関・千厩警察署の担当者が一堂に会し、長期休業中の指導事項、情報モラルの指導、他校の中学校文化祭の対応についての申し合わせや、生徒指導の状況についての情報交換がなされました。その中で、小学生は午後8時、中学生は午後9時以降にはスマートフォンを使用しないことを呼びかけておりますが、中学生の実態として午後9時では難しいのではないかという意見が複数出されました。今後、児童生徒や保護者にどのように呼びかけていくかについて、検討が必要であることが確認された会議となりました。

5月21日から22日にかけて、岩手県市町村教育委員会協議会定期総会に出席してまい

りました。全国都市教育長協議会で文部科学省から出された行政説明などの課題について、県内で情報交流することができ、有意義な協議会となりました。2日目の研修では、盛岡市教育委員会が設置している教育支援センター「ひろばモリーオ」青山と厨川中学校の校内教育支援センターを視察してまいりました。本市でも今年度から校内教育支援センターを開設しておりますので、研修内容を学校教育課と共有したところであります。

5月23日には、一関市倫理法人会設立30周年記念式典及び祝賀会が行われ、来賓として出席いたしました。

5月24日には、毛越寺の曲水の宴に市長代理として出席してまいりました。

5月26日には、本市の初任者研修を行いました。対象は小中学校の教諭の新採用者で、小学校11名、中学校9名、合計20名です。私からの講話、指導主事からの講義の後、読書に親しむ児童生徒の育成について一関図書館の主幹からお話をいただきました。午後は博物館に出向き、ことばの先人について主任学芸員から講話をいただいた研修会であります。

同日、奨学生選考委員会が開かれました。令和8年度の一関市奨学生について、前回の1次募集で貸付可能人数の上限に満たなかったため、追加で2次募集を行い、選考を行いました。

行事報告については以上であります。何かご質問はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、行事予定について事務局からお願いいたします。

教育総務課長。

○教育総務課長（説明）

○教育長 次回の教育委員会定例会ですが、6月24日水曜日午後1時30分からですが、よろしいでしょうか。では、よろしくお願いいたします。

また、7月2日木曜日の午前10時から11時30分の予定で、総合教育会議を行うこととしておりますので、よろしくお願いいたします。

その他の行事予定についてはよろしいでしょうか。それでは、行事報告及び行事予定については終了いたします。

○教育長 続きまして、議事の3、その他に入ります。

その他(1) 令和8年度学校教育行政の重点における（ことばの力を育てる教育）

○教育長 その他(1) 令和8年度学校教育行政の重点における「ことばの力を育てる教育」について、事務局から説明をお願いいたします。

学校教育課長。

○学校教育課長（説明）

○教育長 ただいま説明がありました「ことばの力を育てる教育」について、ご質問等がありましたらお願いいたします。

伊藤委員。

○伊藤委員 説明のとおりであると考えます。長い期間、本市において教育委員会が教育政策の重点としてこの言葉の教育を行ってきたことで、成果が表れつつあると私たちも感じておりますので、ぜひまた力を入れていただき、この内容を現場へ定着させていっていただきたいと思います。

ただ、気になるのは、ことばの教育をこれほど一生懸命行っているにもかかわらず、家庭内での会話が不足していることや、他者と関わるコミュニケーション能力の向上が今一つではないかと感じられる点があることです。言葉の教育を行い、本もしっかり読んでいけば、本来は人と関わる力が育つはずであります。その点が少し気になっているところであります。

以前、岩手県へ行き発表をさせていただいた際には、本市のこのような実践が高く評価されましたし、テキストに関しても多くの質問が寄せられました。ですから、他市からも評価されているこのことばの教育の内容を、ぜひ現場へ下ろして継続していただきたいですし、先ほど申し上げた心配な事例が解決に向かうような状況になれば良いと考えております。よろしくお願いいたします。

○教育長 他にございますか。

佐藤委員。

○佐藤委員 ただいま伊藤委員からお話がありましたとおり、ことばの教育については、学ぶための学力という「知」の部分と、コミュニケーション能力という「徳」や「体」の部分、これら3つ全てに効果があるものと考えます。

特に先月も申し上げましたが、小学校の授業で教科書を皆で音読する機会が少なくなっている中、音読には非常に大きな意味があります。声を出すことによる健康面への良い影響を考慮いたしますと、「知・徳・体」全てにおいて意味のある取組であると思います。

また、デジタル化やAIの普及など教育環境が変化していく中で、より言葉の教育が目指すアナログ的な要素を尊重することは非常に重要です。幼稚園や小中学校を含め、一関市の教育の魅力を1つ挙げるとすれば、この実績のあることばの教育であると、他自治体からも評価を受けております。

引き続き充実を図っていただくとともに、一関市の魅力がことばの教育であると発信できるぐらい、さらに広く発信していった良いのではないかと考えます。今は市民センターと言いますが、かつて公民館事業で方言や昔話を皆で学ぶ活動がありましたが、市民の方々に「一関市の教育と言えば言葉の教育である」と広く共有されるぐらい、大切な取組

として継続していただければと思います。

○教育長 他にございますか。

大浪委員。

○大浪委員 読書活動の推進に関してですが、現代の児童生徒は学校が終わった後も習い事や勉強があり、自由な時間に読書をするとなると、その時間を確保すること自体が難しい状況にあると感じております。そもそも家庭内に読書をする習慣がない環境では、ますます本を読む習慣から離れていく懸念があります。

また、昨今は書籍の価格が高騰しており、良い本であっても、漫画や小説を問わず非常に高価になっていて、自分で購入しづらいという印象を持っております。そのため、学校図書館や市立図書館を充実させ、子どもたちの意見を聞きながら蔵書を揃えていくことが重要であると考えております。

その中で、昨年度の定例会でいただいた資料と令和6年度、令和7年度の蔵書数の現状を比較いたしますと、1年間で1万7,000冊程度蔵書数が減少しております。この減少の理由についてご説明いただきたいのが1点目であります。

2点目として、昨年度の資料には「ビブリオバトル出前授業」という項目がありましたが、今年度の資料からは削除されております。友人や先生、あるいは普及員の方が本を紹介したり、子ども同士でビブリオバトルを行ったりすることは、自分の知らない本を知る良い機会となります。出前授業に限らず、各学校での実施を促すことが子どもたちの読書への刺激につながると思いますので、ぜひ実施を推奨していただければと思います。

○教育長 ありがとうございます。

教育次長。

○教育次長 蔵書数について、私から回答いたします。小中学校の学校図書館の蔵書数につきましては、国が定めた標準図書数という一定の基準がございまして、それをクリアできるよう蔵書の入れ替えができるよう、図書購入の予算は確保しております。児童生徒数の変動による入れ替えなどもあり、全体として蔵書数が減少しているように見える部分もあるかと思いますが、文部科学省が推奨する規模に対する基準冊数はクリアしている状態です。予算が削られたから図書が少なくなっているということではなく、一定の基準を満たすように予算を常に確保して対応しているところであります。

○教育長 補足いたします。国が定める標準図書冊数を大幅に上回ると新規の図書を購入できなくなるという状況になりますため、新しい本を入れると同時に、古い本や破損した本を同時に廃棄する作業を毎年行っております。毎年新しい本は入っているものの、同時に古い本を確実に廃棄していることも関係していると考えられます。

○教育長 一関図書館長。

○一関図書館長 学校図書館の蔵書数の変化と、学校でのビブリオバトル等の本の紹介についてお答えいたします。

まず1つ目のご質問についてですが、令和6年度末の小学校の蔵書数が15万9,457冊であったのに対し、令和7年度末は15万7,887冊と、確かに減少しております。これは先ほど教育長が申し上げましたとおり、本の耐用年数が切れた図書や、学習指導要領に合わなくなっている図書などを除籍した結果であると考えております。また、学校統合に伴って蔵書数が減少するという要因もございます。中学校についても同様で、令和6年度末が12万7,142冊であったのに対し、令和7年度末は11万1,336冊となっております。これも児童生徒数の減少と、適切な図書管理をするための除籍によるものであります。

次に、本の紹介についてですが、小学校低学年向けには、あらすじを説明して興味を持たせる「ブックトーク」を実施しております。中高学年向けには、ご提案のありましたとおり、自分の好きな本の魅力を話し合う「ビブリオバトル」を実施しております。市立図書館で実践した実績がございますので、これをどのように市内の学校へ普及させていくかが課題であると認識しております。今後、市内に広めてまいりたいと考えております。

○教育長 貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。本市で進めております「ことばの力を育てる教育」については、今後も充実させてまいります。それでは(1)については終了いたします。

その他(2) 一関市地域クラブ活動推進協議会について

○教育長 その他(2)一関市地域クラブ活動推進協議会について、事務局からお願いいたします。

いきがいきづくり課長。

○いきがいきづくり課長 (説明)

○教育長 ただいま説明がありました、一関市地域クラブ活動推進協議会について、ご質問等がありましたらお願いいたします。

大浪委員。

○大浪委員 この件とは直接関係ないかもしれませんが、5月に他地域で発生した部活動の移動中の交通事故に関連して質問いたします。一関市においては、児童生徒が試合や練習試合等へバスで向かう際の移動手段はどのようなになっているのか、教えていただければと思います。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 先日、中体連事務局の校長と話す機会を設け、現状を確認いたしました。市内の部活動におきましては、基本的には保護者の送迎による現地集合・現地解散が

主流となっており、報道にあるようなレンタカー業者等を利用しての移動については、少なくとも事務局校としては把握していないということでした。

あわせて、各中学校長に対しまして、移動で業者を利用する場合には、白タク行為を行うような不適切な業者を選ぶことがないよう必ず事前に適切な業者を責任をもって確認して利用するよう、指示をしたところでございます。

○教育長 他にございますか。

伊藤委員。

○伊藤委員 部活動の地域移行に関して懸念している点があります。学校の部活動であれば、中総体や県中総体とつながっており、技能が高まれば大会に出場できる体制が整っております。しかし、地域クラブ活動に移行した場合、所属によっては中総体の大会に出場できないといった困惑の声があるようです。

また、私が最も懸念しておりますのは、「何のために部活動を行うのか」という点です。学校での部活動は、単なる技能向上や試合での勝利を目指すだけでなく、人間教育、人づくりを目的としております。学校から離れて地域へ指導をお願いした際、地域の指導者の方々が「スポーツを通じた教育」として指導してくださるかどうかが心配であります。

できれば、指導者の方々へ「スポーツをすることは教育である」という理念を念頭に置いていただくようお願いしたいと考えております。中にはそうした理解をいただけない方もいらっしゃる可能性があるため、憂慮している次第であります。よろしくお願いいたします。

○教育長 いきがづくり課長。

○いきがづくり課長 指導者のあり方については、一関市地域クラブ活動推進協議会の中でも重要な議題としてご意見が出されているところでございます。勝ち負けにこだわるあまり、勝利至上主義に陥ったり、不適切な指導が行われたりしないよう、研修などを実施するとともに、適切な研修を受講した方を指導者として認定する制度を市として創設するなどして、円滑に移行できるよう検討してまいります。

○教育長 部活動の意義についての根拠となるのは、学習指導要領になります。現在の学習指導要領では、中学校の部活動については、生徒の自主的・自発的な活動であると位置づけられております。次期学習指導要領でどのように位置づけられるかということも踏まえつつ、現在行っている学校部活動、過渡期にある地域部活動、そして今後創設される認定地域クラブ活動の運営に、その趣旨を活かしていく必要があると考えております。

それでは、(2)については終了いたします。

○教育長 その他(3)について、委員の皆様から何かございますか。

伊藤委員。

○伊藤委員 本市におけるA I、スマートフォン、タブレットの導入が、教育や「ことばの教育」にどのような影響をもたらすかについて伺います。安易に機械に頼ってしまうことで、図書離れが進んだり、教育的効果が損なわれたりする懸念はないか気になっておりますが、いかがでしょうか。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 A Iなどのデジタル技術の活用については、A Iのみに依存するのではなく、デジタルとアナログそれぞれの良いところを活かしながら進めることが重要であると考えております。A Iを活用して生み出された時間を、子どもたちの資質向上に充てるなどのメリットもあると考えます。メリットとデメリットをしっかりと分析しながら、適切に対応してまいります。

○教育長 よろしいでしょうか。他にございますか。

それでは、その他(3)を終了いたします。

以上をもちまして、第291回一関市教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。